

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 玉川大学

1 事業の趣旨・目的

本事業は、地域で活動するボランティアを対象に地域（や学校）における日本語教育支援が抱える問題点を共有し、その解決策を探る糸口となるような情報（講義・WS）を提供することを目的としている。具体的には、定住外国人親世代・子世代・家庭の抱える問題点、指導法や教室運営法等地域日本語支援に益する情報を理論・実践両面から提供する。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
9月29日 (火)	玉川大学	佐藤、渡辺、中田、山崎、永井	企画案の検討	企画(テーマ及び講師)の検討と調整
12月14日 (月)	玉川大学	佐藤、渡辺、中田、永井	第一回講座開催にあたって	第一回講座運営に関する打ち合わせ
2月20日 (土)	玉川大学	佐藤、渡辺、中田、永井	講座の中間報告	第一回～第四回までの報告及び講演会に関する調整
3月15日 (月)	玉川大学	佐藤、渡辺、中田、山崎、永井	本年度講座に関して	本講座の課題及び次年度に向けての話し合い

【写真】



3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名
定住外国人親子に対する日本語指導者養成講座
- (2) 養成講座の目標
 - ・現在、地域が抱える生活者としての外国人の問題についての基礎的知識を得ること
 - ・地域の日本語教室における実践的な指導方法を身につけること
- (3) 受講者の総数 20 人
- (4) 開催時間数(回数) 20 時間 (6 回)
- (5) 参加対象者の要件
現在、地域の日本語教室などでボランティアを行っている方
もしくは、今後行う予定のある方
- (6) 受講者の募集方法
 - ・募集要項を玉川大学ホームページ上に掲載
 - ・募集チラシを地域 NPO に送付
- (7) 研修会場
玉川大学(主として 9 号館を使用)
- (8) 使用した教材・リソース
 - ・オリジナルテキスト
 - ・春原憲一郎・谷啓子 監修 『こどもにほんご宝島』(2009.ask)
 - ・地球っ子クラブ2000『みんな地球っ子～話そう！遊ぼう！知り合おう！～親子の日本語活動集』(2007.NPO 法人地球っこクラブ)

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
12月19日 13:30～ 15:00	【講義】学校現場の抱える問題	関東国際高校・東京学芸大学附属国際中等教育学校 講師 菅原 雅枝	16名
12月19日 15:10～ 17:10	【WS】日本語「を」学ぶこと・日本語「で」学ぶこと	関東国際高校・東京学芸大学附属国際中等教育学校 講師 菅原 雅枝	16名
1月16日 13:30～ 15:00	【講義】定住外国人家庭が抱える問題	東京国際大学講師 杉本 篤史	19名
1月16日 15:10～ 17:10	【WS】子どもたちの「声」を引き出す工夫	練馬区教育委員会日本語指導講師 谷 啓子	19名
1月30日 13:30～ 15:00	【講義】子どもの異文化理解を進めるために	フェリス女学院大学講師 清水 基久	20名
1月30日 15:10～ 17:10	【WS】中高生のための異文化を意識した日本語指導	玉川大学講師 宮田 聖子	20名
2月20日 13:30～ 15:00	【講義】日本で生活するために必要な日本語力・・・調査から分かること	国立国語研究所研究員 福永 由佳	20名
2月20日 15:10～ 17:10	【WS】生活者として外国人に向き合うために	国立国語研究所研究員 福永 由佳	20名
3月6日 13:30～ 15:00	【講義】親子国際交流活動の実態	地球っこクラブ2000 高柳 なな枝	18名
3月6日 15:10～ 17:10	【WS】親子活動教室における教材作成	地球っこクラブ2000 高柳 なな枝	18名

3月13日 14:00～ 16:00	講演会	元東京女子大学教授 西原 鈴子	20名
3月13日 16:10～ 16:40	本講座のまとめ	玉川大学准教授 永井 悦子	20名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

「講義」「ワークショップ」「企画運営」に関し、記述式のアンケートを行った。以下抜粋したものだが、概ね満足を得られる結果であったことがうかがえる。

- ・毎回テーマが違い、各講師の方々からの幅広い話を実例を踏まえたうえで聞くことができたので理解しやすくよかった。
- ・大変興味深い話を聞けたので、もっと時間があるとよいと思った。特に実際にあった問題をどのように解決したかなどは、二部に分けても聞きたかった。
- ・多方面から先生を招いていただいて、今までより日本語教育について興味がわいた。
- ・時期も回数も満足で、時間帯も土曜の午後でよかった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

[企画内容]はじめての試みであったため地域の日本語支援に関して様々な角度から講義を行った。受講者アンケートの結果から、限定的なテーマ設定を行うべきではないかという運営委員会での議論は杞憂であったことがわかった。

[受講者数]20名という小規模であったが、定員以上の応募希望者数があったことから、今後考慮する必要がある。

[その他]本事業の実施により、地域における日本語支援者（ボランティア）への情報提供が十分でないことを実感するに至った。少人数ではあるが、地域に向けて行った本講座の意義は決して小さくないと考える。今後も継続して地域との連携を深め、地域の知的資源の供給所として、大学の資源を地域に還元できるよう、企画提案を行っていく。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

以下を企画中である。（一部はすでに行っている）

- ・本学近隣地域 NPO と共同の学習会（指導法や教材に関する情報交換）
- ・地域のボランティア支援者等にむけた公開講座・シンポジウムの開催
- ・本学近隣地域 NPO 等地域日本語支援団体の活動への本学学生の参加・交流活動

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

・留学生職業開発センター等 NPO 団体への学生ボランティア、講師等の派遣、
企画運営案の提供

② 研修後の人材活用

・受講生の多くは、現在ボランティアとして日本語教育の支援を行っている。今後も活動を継続するとともに、所属する団体でのリーダー的存在としての活躍が期待される。

(12) 今後の課題

本年度の事業は、受講者アンケートからもうかがえるように、概ね当初の目的を達成できたものとする。ただ、地域における日本語支援の現状は、時勢によって様相を変えるものであり、今後、地域の支援現場のニーズをくみ取り、地域に益する企画を提供していく必要がある。そのためにも、地域との連携強化に努めていくことが何よりの課題とする。